

◇は委員、◆は事務局の発言です。

協議 令和5年度学校評価について

中学校・高校とも、事務局が説明した後、協議していただきました。

中学校

◇私は地域の人に、中高一貫教育校のメリットを聞かれる。吉野川市立中学校も、新入生の減少に危機感をもっている。地域の者が発信して、県立・市立両方の中学校の人数が増えるようにしたい。

◆昨年度、中学校の受検生が大幅に増えたのは、広報活動の成果である。今年度は受検者数が減少した。地元の吉野川市全体の児童数も増えていく見込みがないような状況である。広報活動にしっかり取り組んでいかなければならない。学校の魅力をどのように作り上げていくか、学力をどうやって伸ばしていくのかも課題である。

◇これから受検を考える保護者は、中高一貫教育校のメリットを一番聞きたいと思うだろう。学力をどのように伸ばそうとしているか聞きたいと思う。

◇去年・今年と生徒の活動の様子を見て、「思考力・判断力・表現力の育成」に力を入れていると感じた。学校評価総括表にもあるが、学力を学校としてどう捉えているのかが問題と思う。「主体的、対应的な学びを実現する」とあるが、そこで身につく「確かな学力」と言われるものは、「知識・技能」だけではなく、「思考力・判断力・表現力」等の能力や、「学びに向かう力、人間性」を含めての学力だと思う。このように学力を捉えれば、これからの人間形成にあたって、本校では「こんな生徒が育つ」とアピールできると思う。例えば、ボランティアでこれほど生き生きと生徒が活動している学校はない。その中で培われる社会性、対人関係能力等がある。学力をどのように捉え、中学校からの6年間を教育することで身につくものをどのようにアピールするかが課題である。

◇公表した時に、学校評価総括表を初めて見た人が、このような計画で具体的にどのように実施したか分かった方がよい。

◇中高一貫教育校なのに、いろいろと学んでいって、高校に行くほど割合下がっているのかという疑問がある。本当なら一貫教育の良さの実感、満足度が高まっていかなければならないと思う。

◆川島高校では、このような授業があるということで、「スペシャルアプローチ」という高校教員の授業がある。「先輩から学ぶ」という時間に、中学校2年生が高校2年生に学校生活のことを質問できる時間もある。

◇次年度の課題には、進学説明会や面談等、肯定意見の割合が低かったものをどうするか、示す必要があると思った。

◆今年度、自転車乗車時に生徒の交通事故が2件あった。

- ◇3～4年前、生徒さんから、夜帰る時に暗くて怖い・危ないとの声があつて、JR や市役所に照明をつけるよう要望したが、実現しなかった。もう一度、照明をつけるよう要望できればと思う。
- ◆SNS 上で生徒たちの中でトラブルがあつた。保護者の心配と関係しているのか、保護者の回答で「人権を大切にする教育活動」は80%と、例年より8%ほど下がっている。
- ◇情報モラル教育の推進に関して、徳島市の総合教育会議でも話題になった。徳島市も情報モラル教育を進めるために、出前講座で講師を呼んだかどうかという数字を出している。「講師に来てもらったから情報モラル教育をやっています」ではなく、カリキュラムマネジメントの中で、教育課程の中にどのように位置づけていくかが大事。

高校

- ◇保護者のアンケート回答率はどうか。満足でないという数字は、回答が少ないほど厳しい意見になるのか。
- ◆インフルエンザ等で生徒の欠席が多く、昨年度よりは回収率が下がったが、肯定意見のパーセンテージは昨年度より上がった。保護者の学校評価アンケート回収率は94.9%、中学校は85%である。
- ◇「中高一貫教育の推進」は1つ目の重点課題で、中学校も同じ。指標では、中学校は85%だが高校は70%でいいのか。高校ほど高まってほしいと思うので、検討して欲しい。70%の指標を満たしていればBで、どこからAにするのか、中学校の方が厳しいように思う。中高一貫校で、同じ項目でよく似たことなので、すり合わせが大事である。
- ◆県立中学校から入学してきた生徒の「中高一貫教育」に対する捉え方・パーセンテージと、公立中学校から入学してきた生徒の「中高一貫教育」の捉え方が違うと思う。来年度からそういう観点を入れて分析した方がいいかもしれない。
- ◇中高一貫教育の良さは中学校から高校にきて6年間通うから実感できる。そこは分けて考える方がいいのではないか。
- ◆高校から入ってきた生徒たちは、中学校時代を共にしてないが、後輩たちが中学校にいるという目で見ているように思う。多くの生徒たちが温かい目で後輩を見てくれている。高校から入ってきた生徒の「中高一貫教育の魅力をどう感じるか」というパーセンテージが、県立中学校から上がってきた生徒より低かったのは確かである。
- ◆生徒の記述回答を見ると、例えば「学校祭は中学生と一緒にできてよかった」など、肯定的な意見を持っている者も多いと思う。
- ◇「学力」というと、文部科学省のいう「確かな学力」を指していると思う。しかし、総合評価の所見に「模試成績の向上に繋がった」とあつたので、それが「確かな学力」かという、一部しか指していないと思う。学力をどう捉えるか。重点目標に「主体

的、対話的で学びの実現を目指す」とあり、3つの柱の資質・能力を育成しようとしていると思う。学力をどう捉えるか、どのように発信するか、検討してほしい。

- ◆中学校と共通する。どうしても 模試の点や進学実績に目が行きがちで、教員が深く考えることが必要なので、次年度に向けて考えていきたい。
- ◇ボランティアで川島中学校・高校の方と携わらせていただいて、進路にプラスになればいいなと思っている。
- ◇重点課題が特別活動だけの項目になっているので、来年度から、特別活動や部活動などと並記して欲しい。
- ◇川島子ども食堂に触れていただいて、ありがたい。これからは「こんなことをやりませんか」と提案していただければ。トルコの地震支援の時も、学校からの提案、子供さんたちの意欲で募金活動をすることになって、素晴らしい結果を生んだ。
- ◆昨年度は子ども食堂について生徒が話し合って提案させていただいたが、今年度はできていないので、幅広く呼びかけたい。ボランティア活動に意欲的な生徒が多いので、行政機関等の要請にも対応しており、続けていきたい。

報告 令和5年度の教育活動について

委員からの発言はありませんでした